

報告事項ス

青谷高等学校「青谷学」における青谷上寺地遺跡の学習について

青谷高等学校「青谷学」における青谷上寺地遺跡の学習について、別紙のとおり報告します。

平成30年11月22日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

# 青谷高等学校「青谷学」における青谷上寺地遺跡の学習について

平成30年11月22日  
文化財課  
高等学校課

青谷高等学校の2年生を対象とした「青谷学」において、同校と埋蔵文化財センターが連携し、国史跡青谷上寺地遺跡の学習に取り組んでいます。

## 1 青谷学の目的

青谷学は、青谷地域の歴史、文化、産業を知るとともに地域の課題に気づき、その解決に向けて思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を育成しながら、地域に貢献する姿勢及び態度を養うことを目的とするものです。埋蔵文化財センターは学校教育の教材として遺跡や出土品の活用に取り組んでおり、積極的に同授業に協力しています。

## 2 国史跡青谷上寺地遺跡を活用した授業の内容

対象学年：2年生 受講人数：生徒22人 授業時間：3・4校時（2時限）×4回

講師：埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査整備担当係長・文化財主事

○10月26日（金）

講義1：「弥生時代と青谷上寺地遺跡について」

弥生時代や青谷上寺地遺跡を通じて地域の魅力を探るための基礎知識を学ぶ

○11月 2日（金）・9日（金）・16日（金）

3班に分かれ、全員が3日間で講義と発掘調査や出土品の整理作業を体験

講義2：「弥生人に学ぶ食と健康」

青谷上寺地遺跡から出土する食に関連する資料から当時の食生活を学ぶことを通じて、これからの食と健康の問題などを考える

体験1：発掘調査体験

青谷上寺地遺跡第18次発掘調査に参加し、実際に遺跡を発掘することで、青谷上寺地遺跡の魅力を体感する

体験2：出土品の整理作業体験

土器などの出土品の整理作業を通じて、本物の文化財の扱い方や、観察を体験する

## 3 発掘などを体験した生徒の感想

○小さいものでも、何かを発見できることが、とてもうれしかった。

○ほかの遺跡では残っていることが珍しい約2千年前のものが次々出てくるということを知りすごいと思った。

○土器を洗う時の力の入れ具合をコントロールするのが難しかった。

○泥などの汚れがきれいになると、いろいろな模様を見ることができた。

○いくつかの破片を組み合わせる作業も体験してみたかった。

○もっと長い時間、発掘や整理作業を続けてみたい。

## 4 教員の感想

個人差はあるが、どの生徒も興味深く学習・体験させてもらっている。生徒たちは、青谷上寺地遺跡が大変素晴らしい、貴重なものであることを理解しており、今後はより専門的な部分をどのように伝えていくのかを工夫してみたい。



講義

発掘調査体験

出土品の整理作業体験